

## 「いるまの」

「仲よくする子考える子やりぬく子」の育成



# 後期学校評価の結果から、 「学校運営改善施策」立案

これまで、7月に実施した学校評価と児童・保護者前期アンケート結果を分析し、検討して立案した、下記の「後期学校運営改善施策」に入間野小学校の全教職員が一丸となって取り組んできました。

**合言葉は、「面倒なことにも丁寧に取り組む児童の育成」です。**

- 【1】話し合い、考えを深め、まとめていく授業を実施する。
- 【2】丁寧な文字を書くことができる児童を育成する。
- 【3】思いやりのある言葉遣いができる児童を育成する。
- 【4】「家庭学習の手引き」利用し、家庭学を習慣化できるようにする。

その結果、どのような成果と課題が見られるのか、後期学校評価を12月に実施し、教職員の自己評価と共に、児童・保護者アンケートを実施しました。今回93.5%の回収率となりました。ご多用にもかかわらず、皆様のご理解とご協力をいただき、あらためて感謝申し上げます。前期と同様、この結果を分析し、今後の学校運営改善施策を立案しました。後期学校評価の結果は、裏面をご覧ください。

## 後期学校評価の結果の概要

【教職員の自己評価】では、

- 児童に考えさせる授業を実施し、児童の言葉による授業のまとめに努力し、丁寧な文字を書いたり、いざという緊急時、危機対応能力を身に付けたさせたりすることができたと感じている教師の姿が見られました。基礎的・基本的な学力は定着したでしょうか？

今月の12日(金)に、学力向上策として実施した「**教育に関する3つの達成目標効果の検証**」の結果は、いかがでしたでしょうか。基礎的・基本的な「読む・書く」「計算」のテスト内容となっています。誤答は、理解させてから返却するようにしています。ぜひ、ご覧ください。

- 教育活動に対する取り組みが、全校で共通理解され、共有化されており、一貫した指導方針の下に実践され、児童の落ち着いた生活態度等に表れてきている。
- 「みんなのために」を考え、行動できる児童を育成するために、学級活動の適切な指導を研究してきたが、学級会に議題を提案し、話し合い、自ら活動する児童が増えてきた。

### ●自分から質問し、考えを深める児童の育成が課題である。

- 「家庭学習の手引き」を利用し、家庭学習の習慣化の指導を、継続して行う必要がある。

【保護者の方のアンケート】からは、

- 「先生は、困ったときに相談に乗ってくれる」の項目のポイントが上がりました。
- 「お子さんは、進んで運動に取り組んでいる」の項目のポイントが下がりました。

【児童のアンケート】からは、自分に対する自己評価を前期より厳しくつける傾向が見られましたが、項目を取り挙げて全校で課題とする事柄はありませんでした。

# 入間野小学校平成29年度後期学校評価



- \* a (4点) b (3点) c (2点) d (1点) として点数化  
 \* 3.4 点以上は A 2.8 点以上～3.4 点未満は B 2.8 点未満は C  
 \* (B) は、前期と比較し、+2 ポイントであったことを示しています。

NO	項目	教職員	児童	保護者
1	児童は、分からないことは質問しながら学習している。	(B) 2.9	B 3.1	B 3.0
2	児童は、文字を丁寧に書いている。	(B) 3.1	B 2.9	B 2.8
3	児童は、進んで家庭学習に取り組んでいる。	B 3.0	B 3.1	B 2.9
4	児童は、自分から目を見て挨拶をしている。	B 3.0	A 3.4	B 3.0
5	児童は、「オアシスご」を使っている。	B 3.1	B 3.1	B 2.8
6	児童は、集団のために活動に取り組んでいる。	(B) 3.0	B 3.2	B 3.1
7	児童は、あきらめずに最後まで取り組んでいる。	B 3.2	B 3.3	B 3.1
8	児童は、進んで運動に取り組んでいる。	B 3.2	A 3.5	B 3.2
9	児童は、いざという時の行動の仕方が分かっている。	(B) 3.2	A 3.8	B 3.1
10	学校は、計算や漢字などの基礎基本を身につけさせている。	A 3.6	A 3.7	B 3.3
11	学校は、自ら考える力をつけている。	(B) 3.1	B 3.3	B 3.1
12	学校は、安心して過ごせるあたたかな学級をつくっている。	B 3.2	B 3.2	B 3.3
13	学校は、規律ある態度を身につけさせている。	A 3.6	A 3.5	B 3.3
14	先生は、困ったときに相談に乗ってくれる。	A 3.4	A 3.6	A 3.4
15	学校は、体力を向上させるための環境づくりに取り組んでいる。	B 3.2	A 3.7	A 3.4
16	家庭では、健康診断の結果を子供たちの健康管理に生かしている。	B 3.2	B 3.2	B 3.3
17	学校は、美しい環境を保持している。	B 3.2	B 3.3	B 3.3
18	学校は、教育活動を充実させるため、地域や保護者の支援を生かしている。	B 3.2	A 3.7	A 3.4
19	学校は、学年・行事等の会計の処理管理を適切にしている。	A 3.8		A 3.6
20	職員は、意図的・計画的に学年・学級経営を進めることができた。	B 3.2	※以下は、教職員の自己評価結果をお知らせしています。	
21	職員は、校内研修に意欲的に取り組み、自己研鑽に努めた。	(B) 3.3		
22	職員は、報告、連絡、相談を密にし、意欲的に職務遂行に取り組んだ。	A 3.6		

## 後期に向けた教育活動改善策・・わからないことは質問できる子の育成

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。保護者のアンケート回収率は、93.5 %でした。この結果や各種学力調査を分析し、「3 学期からの教育活動改善施策」を立案しました。

- 1年
  - ・質問できたことを認め、褒めるようにする。
  - ・言葉遣いを、聞き逃さずに指導する。
- 2年
  - ・言葉づかいが悪い場面では、機会を逃さずに指導し、教師自ら範を示す。
- 3年
  - ・宿題の質と量を学年でそろえる。
  - ・毎日少しずつでも家庭学習ができるようにしていく。
- 4年
  - ・休み時間の言葉遣いについても、注意を向けて指導する。・目を見て挨拶ができるようにする。
  - ・6年生の家庭学習ノートを参考にさせてもらい、内容や丁寧な文字について啓発する。
- 5年
  - ・6年生の家庭学習ノートを参考にさせてもらう。
  - ・引き続きいじめや差別のない学級づくりを行う。
- 6年
  - ・運動に親しめるように、時間を確保したり、カードを利用したりする。・学習の躓きには、教師から働きかけつつ、家庭学習ノートに児童から質問させ、それに答えていけるようにする。

